

ふくおかの経済

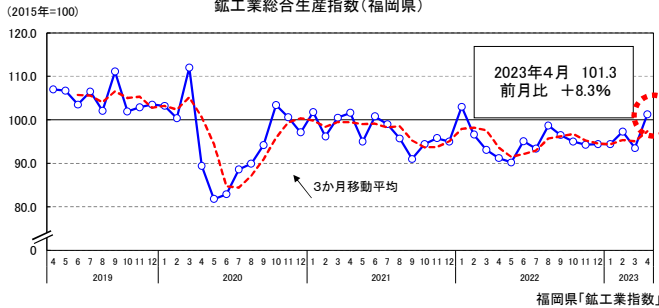
令和5年6月号



生産

持ち直しの動きがみられる。

4月の生産指数は金属製品工業、輸送機械工業などが上昇したため、2か月ぶりに前月を上回りました。

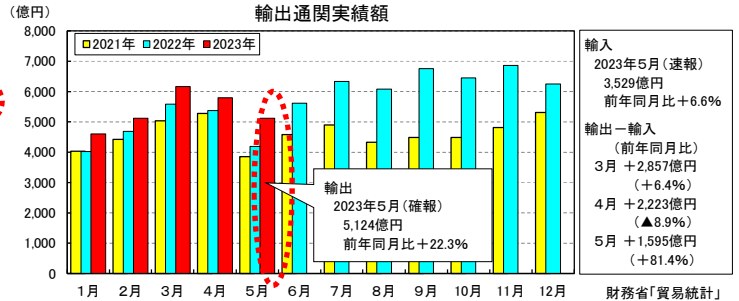


鉱工業生産指数は、2015年の生産水準を100として、その変化を表しています。

貿易

輸出額、輸入額ともに、前年同月を上回っている。

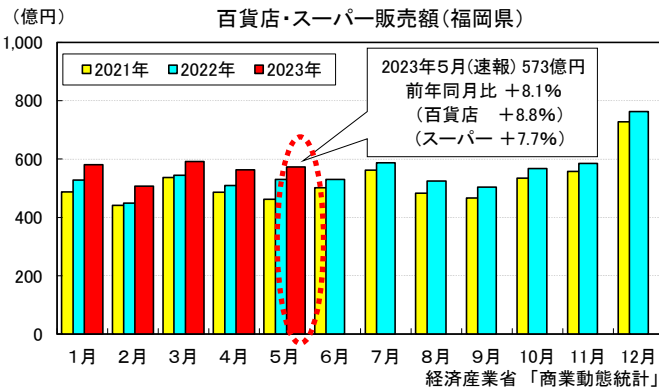
5月の輸出額は、前年同月比+22.3%、輸入額は同+6.6%といずれも前年同月を上回りました。



消費

緩やかに回復している。

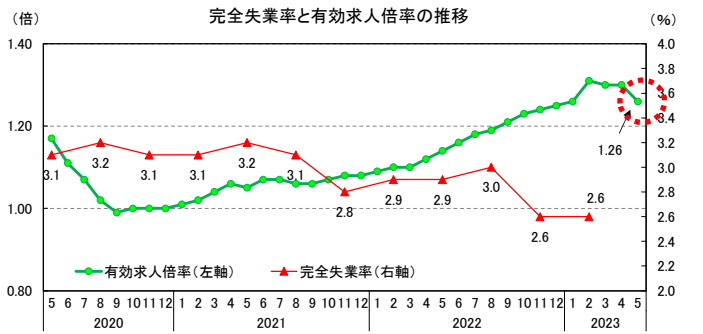
5月の百貨店・スーパー販売額は、20か月連続で前年同月を上回りました。



雇用

雇用情勢は、改善している。

5月の有効求人倍率は1.26倍で、前月を0.04ポイント下回ったものの、前年同月では0.12ポイント上回りました。



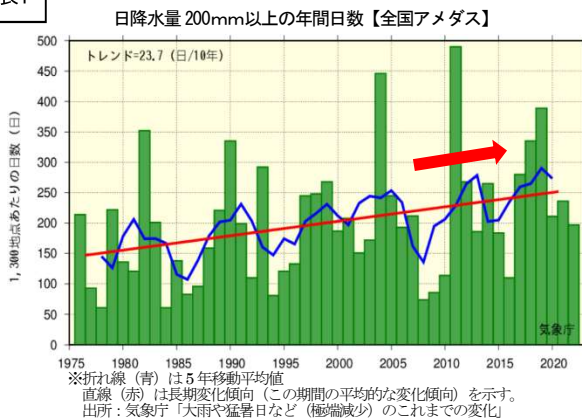
完全失業率:総務省「労働力調査」四半期平均 / 有効求人倍率:福岡労働局「雇用失業情勢」

「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。1.00倍より大きいと、人手不足を表します。

今月のトピック「逆線引き」～社会情勢などに対応した土地利用～

- 近年、気象現象の変化が目立ってきており、気象庁では、「大雨の年間発生回数は有意に増加しており、より強度の強い雨ほど増加率が大きくなっている」と分析しています(図表1)。本県でも5年連続で大雨特別警報が発表されるなど、災害に対する備えがより重要となってきました。
- このような変化に対応して、より安心・安全な都市としていくために、「市街化区域」を、新たな開発が抑制される「市街化調整区域」に見直す「逆線引き」の取り組みは有効と考えられます。
- 県内では、北九州市において、斜面地住宅地などで手続きが進められています。都道府県では、広島県において先行して進める箇所が公表されるなど推進されています(図表2)。
- 今後、人口減少などの社会状況も踏まえ、より持続可能な都市づくりが必要とされています。

図表1



図表2

逆線引きに係る取組状況

団体名	取組状況
北九州市	コンパクトなまちづくりを推進していくため、令和元年12月に「区区分見直しの基本方針」を策定。見直し候補地は、関係者との調整により、当初案より面積、建物数など、大幅に減少したものの、現在、都市計画原案を作成中。
広島県	近年の激甚化・頻発化する豪雨災害への対応として、「広島県都市計画区域マスタープラン」(令和3年3月)などに逆線引きの推進を位置付け、取組の進め方や対象箇所の選定方法などを定めた取組方針(令和3年7月)に基づき、市町と連携しながら実施。

目指す姿

現在 市街化区域内において、災害リスクの高い区域が多含まれ、土地利用規制が十分に機能していない	20年後 対象箇所の逆線引きが概ね完了し、災害リスクの高い区域において、 新規居住者がほぼいない	50年後 土地利用規制(新築や建替えなどの抑制)が十分に機能し、災害リスクの高い区域に、 居住する人が概ねいない
---	---	---

出所:各団体HPIにより作成(広島県の図表は、取組方針から引用)